

高校生が花壇づくりで駅前を明るく！

12日、都立農芸高校（今川3-25-1）の園芸科学科の生徒が、JR阿佐ヶ谷駅前の花壇づくりを行いました。この花壇づくりは、社会貢献活動の一環として同校が毎年実施しているもので、駅前を華やかにして道行く人に楽しんでもらおうという思いが込められています。花壇にはペゴニアやクフェアなどの色鮮やかな花々が植えられました。

都立農芸高校は、およそ7.3万㎡もの敷地を有する農業高校で、農業生産や食品加工、環境保全など農業を中心とした幅広い知識や技能を学ぶことができます。

農芸高校の生徒による花壇づくりは、平成13年に杉並区と農芸高校で交わした花壇づくりに関する協定により始まり、毎年9月に晩夏の花を、11月下旬には葉ボタンやパンジーなどの冬の花を植えています。

12日午前10時10分、作業着を着て集合した農芸高校3年生の生徒17名は、阿佐ヶ谷駅の北口と南口に分かれ、作業を開始しました。日頃学んできた栽培技術を遺憾なく発揮し、5月下旬から丹精込めて育てた700株以上のペゴニアやクフェア、テランセラを手際よく植えていきました。「もう少し間隔を開けて植えた方がいいよ」とアドバイスし合いながら、より花壇をきれいに見せようと生徒たちは積極的に作業しました。



花の植え付けは2時間ほどで終わり、花壇には色とりどりの花々が色鮮やかに咲き誇り、駅前の風景を明るく飾りました。これらの花は、11月の植え替えまで、駅利用者などの目を楽しませることになります。



【問い合わせ先】

杉並土木事務所：03-3315-4178

総務部広報課：03-3312-2111（代表）